

秋田市教育委員会 会 議 録

令和 7 年 9 月定例会

記録者

秋田市教育委員会令和7年9月定例会会議録

1 日 時 令和7年9月25日（木曜日）
午後3時30分～午後4時30分

2 場 所 5－A会議室

3 出席委員 教育長
教育委員
教育委員
教育委員

4 出席職員 教育次長
教育次長
総務課長
学事課長
学事課参事
学校教育課長
教職員室長
教育研究所長
学校適正配置推進室長
生涯学習室長
御所野学院高等学校長
御所野学院高等学校事務長
総務課長補佐
総務課副参事
総務課副参事
総務課主席主査
学事課主席主査
教育研究所主席主査
総務課主査

5 議 題

【付議案件】

議案第17号 教育委員会事務の点検・評価に関する件

【教育長等の報告】

- (1) 令和8年度秋田市立御所野学院高等学校連携型中高一貫入学者選抜実施要項について
- (2) 令和7年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

6 議 事 午後3時30分開会

【欠席の報告】

委員から定例会を欠席する旨の届出があったことについて、教育長が報告した。

【令和7年8月定例会会議録の承認】

令和7年8月定例会会議録について、異議がないため承認された。

【会議録署名委員の指名】

教育長が今回会議録の署名委員として委員2名を指名した。

【付議案件】

議案第17号 教育委員会事務の点検・評価に関する件

教育長 議案第17号「教育委員会事務の点検・評価に関する件」について、事務局から説明願う。

総務課長 (資料に基づき説明)

委員 学識経験者の意見に、統合後の児童生徒の意識調査や、子どもたちや地域へのケアとあるが、これまでに統合後の意識調査を実施したことはあるか。

学校適正配置推進室長 これまでも統合後に、児童生徒、保護者および教員に対してアンケートを実施している。

特に、スクールバスに関することや、統合後に児童生徒が学校に慣れたかなどを中心にアンケートを行っている。これまでの傾向では、9割以上の方々から統合後の学校生活など

に満足しているとの回答を得ている。アンケートで心配されるような事案が見つかった際には、学校と連携して対応している。

委員

まもなく今年度も上半期が終了するが、新たに強化している取組や、予算の確保などに向けて進めている取組はあるか。

学校教育課長

8月25日から校内教育支援センターに支援員を配置し、4年間で全ての小学校に配置する予定である。

学びの多様化学校については、令和9年度の開校に向けて、設置検討委員会を今年度2回、準備委員会を来年度2回開催する予定としており、開校に向けて協議を進めていく。

総務課長

小・中学校のエアコンの設置について、これまでは、普通教室への移設を進めてきたが、今後は、特別教室への移設も計画的に進めていく方向で検討している。

委員

今後、有識者の意見を反映させていく部分も多いと思うが、既に教育委員会でも課題として把握し、取り組んでいる点も多数あると感じている。

先日、秋田市外の教育関係者から本市の教育を褒められた。文部科学省では「知・徳・体」という順番であるところを、本市は「徳・知・体」とし、「徳」を第1に打ち出しているところが、素晴らしいとの言葉があった。

今後も、本市では、「徳」を大事にしながら、教育を進めてほしい。

委員

令和6年度にスクールロイヤーを活用した学校は、小学校6校、中学校4校および高等学校2校であった。有識者からの指摘にもあるように、問題がないに越したことはないが、もう少し活用実績が増えれば良いと思う。今後も、スクールロイヤーを活用するハードルを下げるような取組が必要だと思う。

有識者から、法曹やメディア、情報など関連領域の専門家の支援体制をより強化することが望まれるとの意見がある。

例えば、スクールロイヤーに相談した内容を学校に持ち帰り、学校でスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーにつなげた事案の報告はあるか。

学校教育課長

スクールロイヤーへの相談は、昨年度は21件だったが、今年度は現時点までで、15件と活用は進んでいる。

また、管理職を対象に、校内の連絡体制や協働体制について法務研修会等を実施している。校長から教育委員会に連絡があった際には、相談を受け、助言するなど協力して取り組んでいる。

委員

スクールロイヤーへの相談の数が増えれば良いのか、増えなければ良いのかは一概に言えないが、活用のハードルを下げる取組は、引き続き続けてほしい。

教育長

スクールロイヤーを導入して2年目になるが、学校では、1年目よりも「活用したい」という意識は高まっているか。

学校教育課長

活用した校長からは、相談したことにより、安心して保護者対応等ができるようになったとの意見のほか、継続して相談を希望している学校もある。

また、校長の間でも、トラブルが発生した際にはスクールロイヤーに相談した方が良いなどの情報交換がなされており、今後もさらに活用が進んでいくと思われる。

学校教育課長

スクールカウンセラーは、中学校では各校に配置されており、小学校では中央教育事務所から広域カウンセラーが派遣されている。必要な事案が発生した際には、市教委も入り、連絡を取り合っている。

委員

スクールロイヤーへの相談事案をスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーにつなげたことが、事案の解決につながった例はあるか。

学校教育課長

現時点では、スクールロイヤーへの相談が、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーとの連絡に結び付いているというよりは、学校の対応について、法的な面からス

クールロイヤーに相談している例が多い。

今後は、そのような事案が発生する可能性もあると思われるので、連携体制を整えていく必要があると考えている。

※ 議案第17号については、全員賛成により、議決された。

【教育長等の報告】

(1) 令和8年度秋田市立御所野学院高等学校連携型中高一貫入学者選抜実施要項について

教育長 報告(1)「令和8年度秋田市立御所野学院高等学校連携型中高一貫入学者選抜実施要項について」、事務局から説明願う。

学事課長 (資料に基づき説明)

委員 昨年度実施した試験に、特別な配慮を必要とする障がい等のある生徒はいたのか。

また、今年度の募集人員24名に達する見込みはあるのか。

御所野学院高等学校長 昨年度の受検生の中に、受検に際して特別な配慮を必要とする障がい等のある生徒が2名いた。事前に受検生を呼ぶのは、無用な緊張を与えることになるため、管理機関から代表1名、校長、教頭と保護者で話し合った。具体的な障がいの内容については、この場では伏せるが、本校に入学してから大変な困難が予想される2名だったため、学校生活で本校が対応できることとできないことを伝えた上で受検の意思を確認したところ、受検の意思があるとの回答があったことから、必要な措置を講じて受検した結果、最終的には合格した。

入学に際して、学級生活支援サポーターを配置しており、サポーターの存在が教員に示唆を与え、好事例になっている。

募集人員に対しての見込みについては、御所野学院中学校より、現時点で24名を満たしていると聞いている。実際の出願までどうなるかは分からないが、非常にうれしく感じて

いる。

委員

様々な禁止事項があるが、実際に違反が発生した際の対応について、マニュアルはあるのか。それとも、その都度協議して、対応を決めるのか。

御所野学院高等学校長

様々なケースが発生するため、試験を行う前に綿密な打合せを行っている。カンニング等を発見した場合には、配置している試験官2名のうち、1名がすぐに受検本部に向かい、対応を協議するなど、スクランブル体制で対応できるようになっている。

委員

ワープロでの記載は、いつから認めているのか。

御所野学院高等学校長

いつからかは把握していないが、今年度からの変更ではない。

委員

様式は、ダウンロードできるのか。

御所野学院高等学校長

ホームページからダウンロードできるようになっている。

委員

願書への記載は、ワープロの方が多いのか。

御所野学院高等学校長

把握していない。

委員

これまで、採用試験等の願書も自筆で書くことが求められてきたが、最近では、むしろワープロでの記載が求められているようである。今後は、ワープロでの記載が一般的になってくることを改めて感じた。

教育長

連携型中高一貫校という中で、中学生が御所野学院高校に進学したいと思うきっかけは、高校生との関わりから自分の高校生活のイメージにつながっているということもあると思う。御所野学院高校と御所野学院中学校の生徒同士の交流の状況はどうか。

御所野学院高等学校長

御所野学院高校と御所野学院中学校で、6月に合同体育祭を実施した。高校生から中学生にうまくいかない点を教え諭していた。中学生にとっては、先輩の生き生きと活躍している姿に憧れ、このようになりたいと感じる効果が大きいと思う。

また、学校祭についても合同で実施できないか検討したものの、開催時期に違いがあり、合同での開催はできなかったが、お互いになるべく見に行くようにするなど、生徒間の交流を図っていきたいと考えている。

教育長

中学生にとっては、先輩が一番のモデルであり、志望する動機にも大きく影響してくると思うので、今後とも交流活動をお願いしたい。

※ 報告(1)については、以上のとおり終了した。

(2) 令和7年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

教育長

報告(2)「令和7年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について」、事務局から説明願う。

教育研究所長

(資料に基づき説明)

委員

全体的に本市の子どもたちの意欲が高く、他の人との関わりや自分が人の役に立ちたいなどの点について、全体的に高い割合のように感じた。

昨年までの結果から力を入れたことによって変化があった点は、あったか。

また、ICTの活用について、昨年度より伸びているものの、全国に比べてまだ低い。今後、どのように進めていくのか。

教育研究所長

1点目について、「困りごとや不安があるときに先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」という質問項目では、昨年度と比較し、肯定的な回答をした生徒の割合が5ポイント増えている。また、昨年度実施した「秋田っ子・あい調査」においても、同じ質問項目があったが、今年の3年生が2年生のときの回答と今回の結果を比較しても是定的な回答をした生徒の割合が増えている。中学校各校において、進路相談等で丁寧に教育相談が行われたことや、生徒が教職員に

相談しやすい体制が作られていることがうかがえる。

2点目のICTの活用について、前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使用した子どもの割合は、小学校では、令和4年度と比較し、24ポイント増えており、授業で積極的に活用されていることが分かる。中学校についても、全国平均を下回ってはいるものの、令和4年度から安定して高く推移している。また、PC・タブレットの活用能力に関する質問が今年度新設されたが、文章作成能力、情報収集能力およびプレゼン作成能力について肯定的な回答をした生徒の割合は、全国を上回っていることから、中学校においても適切に授業の中で活用されているのではないかと考えている。

また、指導主事からは、学校訪問等では、各小・中学校において効果的にICT機器を使っている様子が見られたという報告を受けている。

令和3年度から市内の全小・中学校を指導主事が訪問し、ICT活用に関する研修を実施しているほか、教育研究所においても、基本・プログラミング・応用の3つに分けたICT活用研修会を実施している。また、課題研究推進校が、ICTを活用した教育の推進ということで研究を進めている。今後もこのような研修会を通して、学校の取組をサポートしていきたい。

委員

質問紙調査と秋田っ子・あい調査の比較もできているので、調査が活かされており、うれしく思う。

10月にホームページに掲載するとのことだが、学校側としても、今回の調査を活用しながら子どもたちに指導しているのか。

教育研究所長

秋田市の調査結果をホームページに掲載するとともに、授業実践例を作成し、市内の全小・中学校の教員にデータを送付する予定である。各校においては、授業実践例を活用しな

がら授業改善に取り組むと考えている。

委員

調査とは、調査の結果だけで終わらず、どのように活用し、子どもたちに返すかということが大事だと思う。

I R Tに関して、これまでと違った形で子どもたちに自分の結果が伝わることになるが、子どもたちには丁寧に指導しているのか。

教育研究所長

子どもたちには、I R Tバンドということで、1から5までの5段階で結果が示される。公開問題については、何ができて、何ができなかったかが示されているので、各校においては、面談などを通して、丁寧に指導するものと考えている。

教育長

その場合、公開問題で自分の結果が合っていたかどうか分かるのは、26問中の10問ということになる。

委員

全体的に大変良好な結果でうれしく思う。また、各教科の課題が明らかになっているが、私が誇らしいと思うのは、国語がトップレベルを続けている点である。国語の力を付けたいと頑張っても、すぐには結び付かないが、県も本市も国語の力を子どもたちが付けているということは、各教科においても問題の読み取りや理解のベースになっていくと思う。これが強みであるということを意識しながら、今後も国語を大事にし、さらに力を付けてほしいと思う。

委員

今回、理科でC B TやI R Tに変わっている中でも全国平均を上回っており、真の実力ではないかと思う。問題の出し方が変わっても全国平均を上回るということは、先生方の努力が着実に子どもたちに伝わり、しっかりとした実力が付いているからではないかと思う。

自分自身について、幸せな気持ちになることがあるという自己肯定感に関係する質問は、中学生は、1ポイント下回っている。

また、タブレット関係も全国よりも若干低いが、おおむね本市の目指している教育に沿った望ましい結果になっている

ので、今後もこの調子で続けてほしい。

教育長

それぞれの教科の授業で学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つと思っている生徒の割合が、全体的には算数・数学、国語に比べて理科は低いが、全国平均を大きく上回っている。科学的なものの考え方や思考は大事だと思うので、これは傾向としては良いことだと思う。理科の学習を通して、いくつもの事象の中から共通するものを見い出したり、仮説を立てて実験し、その条件から1つの推論を得るというような学び方が身に付くと考える。将来に役立つと思っている子どもが全国に比べて多いことが、大変うれしく思う。

※ 報告(2)については、以上のとおり終了した。

【その他、今後の日程についての報告】

総務課長補佐

今後の日程についてお知らせする。10月定例会については、10月23日木曜日午後3時30分から開催する予定である。

教育長

10月定例会は、10月23日木曜日午後3時30分から開催予定とのことである。委員の皆様、よろしくお願いします。

午後4時30分閉会